

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校	加太中学校	神崎 信彦
学校所在地		
〒 640 - 0103 和歌山市加太2692-1 tel 073(459)0004 fax 073(459)2655		
担当者名		役職名・担当教科
秋山 博紀		教頭
〔学校の概要〕 <p>本校は、和歌山市の西北端に位置し、海と山に囲まれた静かな環境にあり、漁業と観光業が盛んな地域です。加太地区の世帯数、人口は、年々減少しており、令和元年9月現在の世帯数、1,233世帯、人口が2,586人で、本校の全校生徒数も同じく年々減少しており、現在の全校生徒数は26人で、和歌山市の学校では最小規模校です。クラブもソフトテニス部だけの学校ですが、色々な活動では、盛んに行われています。また、地域と学校とのつながりが深く、学校教育に対する関心や期待が大きい地域でもあります。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
1年10名・2年6名・3年10名（計26名）	世界遺産マナー3名、マナー職員3名、職員8名（14名）	高野山（公民館・一の橋～弘法大師御廟）
実践研究テーマ		
歴史上・学術上極めて高い価値を有する世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について学び、理解を深める。		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	高野山学習	
〔キーワード〕 世界遺産学習		
〔単元目標〕 (1) 地元和歌山の世界遺産である高野山の歴史、文化について調べ、理解を深める。 (2) 調べた内容を伝え合う活動を通して高野山の素晴らしさやよさを感じる。（感じる力） (3) ビデオの鑑賞により情報を集め、必要な情報を取捨選択して、目的に応じた資料の収集整理をする。（実現する力） (4) 高野山での現地学習として、「世界遺産講座」の受講・ビデオ鑑賞またフィールドワークを通してより实际的、専門的な知識を得る。また、その情報をまとめる。 (5) 調べたことをプレゼンテーションして発信する活動を通して、企画力、構想力を高め、情報の受け手を意識した表現をする。		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕 全体 5 時間 （「 高野山学習 」 4 時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 和歌山県世界遺産センター…次世代育成事業（現地学習）		

実践校に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	和歌山の歴史や文化を学習する。	「わかやま何でも帳」・「わかやまの文化財ガイドブック」	「わかやま何でも帳」「わかやまの文化財ガイドブック」等
2	高野山について調べよう	インターネットや書籍等で高野山についての調べ学習を行い、知識を深める。	ワークシート
3	高野山についてのビデオ学習 NHK「ブラタモリ」のビデオを観る ・「高野山と空海」 ・「高野山の町」	ビデオ鑑賞を通して高野山についての知識をより深める。	鑑賞態度
4	現地学習	世界遺産講座を受講 「紀伊山地の霊場と参詣道」の学習 高野山でのフィールドワーク。	観察
5	まとめよう	学んだことをワークシートにまとめ、学級内で発表する。また、他者の発表内容もまとめる。 学校行事の「学習発表会」において地域の方々に今回学んだことをパワーポイントを使用して発表を行う。	ワークシート 発表態度

〔単元学習の成果と課題〕

成果 高野山学習の実践を通して、インターネットや書籍等を使って生徒みんなで和歌山の歴史や文化を学習するにあたり、和歌山県の良さ、我々の加太地域のよさをあらためて気づき、その結果、仲間の良さにも気づききっかけとなった。「ふるさと教育」の目的である『和歌山への愛着を高める学習』を推進することができた。さらに「紀伊山地の霊場と参詣道」については、主体的に学ぶことができ、理解を深めることができた。

〔世界遺産学習の効果〕

世界遺産教育は、教科教育において基礎・基本を学び、そして、世界遺産を通じて、世界を身近に感じ、世界の遠いところだけでなく、自分の身近にも大切にしたい、未来の世代にも残したいものを考えることができた。また、その学習の中で、興味の持ったこと（人権、共生、環境、平和）などのテーマを見つけ広く、深い学習をしていくことにあると思われる。

- (1) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について、調べ学習（聞き取り、図書、インターネット等）を通して興味関心を持てるようになる。
- (2) 高野山で課題解決する力、コミュニケーション能力の方法も身に付けることができる。
- (3) 現地学習を通して世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」についての興味関心を高めるとともに、世界遺産学習の素地を養うことができる。
- (4) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」で学習したことをもとに、外国の世界遺産に関心を持ち課題設定ができる。
- (5) 課題について学習したことをまとめ、自分の考えを聞き手に意識して発信することができる。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

世界遺産や身近にある文化遺産、自然環境などを通して地域に対する誇りや地域を大切に思う心情を育み、持続可能な社会の担い手としての意欲や態度を養う学習をこれからの国際社会を形成する子どもたちの資質を高めるためには、この世界遺産学習を通してESD（持続発展教育）や授業設計が必要である。例えば、世界遺産を保全するために、国境を越えて交流しそれぞれで活躍する人々の姿等に触れることで、諸課題に行動できる意識の育成ができると思われる。



生徒 高野山現地学習の感想

○僕は、高野山学習に行くのは3回目だったので「知っていることが多いだろう」と最初は思っていたのですが、話を聞いているうちに知らない事が意外とあり驚きました。世界遺産について話をしてくれた時も、日本は「神仏習合」でいろんな宗教を合わせている事や日本は自然を大切にしようとしているのに対して外国は自然を支配しようとしている事などたくさんありました。奥の院では、今まで見たことのない供養塔や伊達政宗の供養塔の周りがある20ほどある家来たちの供養塔には驚きました。今までの3年間をしっかりと覚えておいたおかげで高野山を知らない人に自分が教えられるようにしたいです。

○僕は、この前の高野山学習で奥の院に五輪塔があり、下から3番目の「火」という部分が反り返ったものが江戸時代に作られたもので、反り返っていないものが鎌倉時代に作られたものとなっていたことや、1つの石だけで構成された一石五輪塔というものがあり、お金をかけないために筆で「地」「水」「火」「風」「空」を表して色々種類があることなどを知りました。参道を進んでいくとお地蔵様に赤い「よだれかけ」がかかっているのがあり、幼くして亡くなった赤ちゃんを見守ってもらうために作られたこと知り感心しました。最後に僕は、今回の世界遺産「高野山学習」をきっかけに他の美しい世界遺産も知ってみたいと思いました。